役者評判記

チ13
3849
112

嘉永七
甲寅春

役者武勇鏡

大坂

嘉永七
甲寅春

役者武勇鏡

大坂

嘉永七
甲寅春

役者武勇鏡

大坂

手10
3849
112
特

特13
206
193

設着武勇競　藝品之
糸大坂の雲用緑
何役でも仇矢もく
的とも人さ勿　大当者
射ん
隅ま隅まで
飛も串く如
見物の
大入

中(なか)と
新(あら)たに
休(やす)まむ
為(ため)の
設(もう)けまし
引(ひく)と
より役者の
昇(のぼ)るとき
拍子(ひょうし)
木(き)
鳴(なり)
物(もの)
囃(はやし)
方(かた)
居(い)
並(なら)び
ます

京都 大芝居 繁昌記 上

大上上吉 ▲三枡大五郎 三代目 小
武道よく至て人物よし 芸事
上上吉 ▲容顔美麗 座
後定九郎 ▲三枡大五郎 二役早替
大上上吉 尾上多見蔵 当

▲若女二枚対

至上上吉　実川延三郎　小

井筒やとよく人気ござる　頼朝

上上吉　汗園我童　△

生れ智仁勇を備へし小松重盛

至上上吉　▲名ある役ぐ部

市川団蔵　小

三汗やのお名ハナト号る民

至上上吉　市川雷三郎　△

忍もの一て浅瀬に深く堅忍

上上吉　尾上松緑　△

幼役でも的をつかめ那須与市

上上吉　三桝勘弥　△

仕甲一のくらいハ名の経基

上上吉　尾上松三郎　△

上上吉　とんと生成お教えなされ山人形光

市川海老蔵　△

上上吉　代女のお役へらくとつとめ

中山文七　角

上上吉　ちらくと一ツ二ツのひのかさい為朝

三桝源之助　△

上上吉　そろくごんくと上がる役三国兵

三桝福九　△

上上吉　おこそとも為朝のこかげ義秀

尾上多賀蔵　△

上上吉　華のの仕初ハナトらくの汗ばハラ

市川市蔵　〃

上上吉　対雛助　△

上上吉　中村幻三郎　角

嵐三吉孫　△
嵐璃寛市　△
嵐雛助　△
坂東家三郎　小
三桝惣人　角
市川森蔵　小
中村歌六郎　△
中村梅花　△
市川市十郎　小
市川新十郎　角

嵐璃寛市　△
嵐雛助　△
坂東家三郎　小
三桝惣人　角
市川森蔵　小
中村歌六郎　△
中村梅花　△
市川市十郎　小
市川新十郎　角

嵐三吉孫　△
嵐璃寛市　△
嵐雛助　△
坂東家三郎　小
三桝惣人　角
市川森蔵　小
中村歌六郎　△
中村梅花　△
市川市十郎　小
市川新十郎　角

中村寿猿郎　月
嵐芳三郎　△
浅尾市松　△
片岡我童　△
市川門之助　△
市川米蔵　△
中村芝翫　南
嵐國福　△
市川市蔵　△
中村梅玉　△

実川実之助　小
片岡松兵衛　小

上十

上

尾上菊五郎 菊
嵐璃寛 橘 花 角
尾上多見蔵 菊
沢村訥升 菊
三桝大五郎 小
市川猿十郎 △

いづれ精勤ゆゑ評判よろしく候

三桝惣五郎 小
実川延若 〃
嵐猿之助 〃
浅尾工左衛門 △
中山栄二郎 △
中村政次郎 △
嵐璃寛 △

いづれもどふも評判よろしく候

王 門岩市 三升 糸女 小
王 門岩市 平八 二上
王 市川八百蔵 門之助 二上
王 市川七蔵 門之助 二上
王 市川高麗蔵 門之助 二上
王 大谷廣右衛門 二上

▲名役後見

真上上吉 市川助三郎 小

先代ニても大出来ニて実盛

▲実悪巻頭

大上上吉 門岡市蔵 小

当時の役ニても按摩ニても 楠

▲実悪敵役道外れ

至上上吉 中村友三 △

実悪の中ニおゐてこの位一番落

上上吉 中村雀右衛門 南

上上吉　中山文七　小
上上吉　中村仲助　△
上上吉　市川市友　△
上上吉　嵐冠十郎　角
上上吉　大谷広右　角
上上吉　嵐舎九　△
上上吉　浅尾門四　小
上上吉　実川大八　△
上上吉　嵐秀　△
上上吉　実川延若　△
上上吉　中村松江　△
上上吉　中村歌右　△
上上吉　実川菊治　小
上上吉　嵐義三郎　角
上上吉　浅尾為十郎　門
上上吉　実川八十郎　△
上上吉　嵐冠十郎　角
上上吉　浅尾為十郎　門
上上吉　嵐舎九　△
上上吉　浅尾門四　小
上上吉　実川延若　△
上上吉　中村松江　△
上上吉　実川菊治　小
上上吉　嵐義三郎　角

上上

嵐雛次郎三　菊
大谷万十　〃
市川三蔵　小
中村東九　△

大分ニ義経ハ目ハてきと実四

嵐大十郎　菊
中村多見郎　〃
市川辰五郎　小
尾上松九　△

上上

坂田九圓　菊
浅尾為十郎　小
中山仲蔵　角
片岡万之介　小
中山百蔵　〃
片岡松十郎　△

中村弥助　小
片岡市太郎　△

みづれもろぽくハつよき事静咲家

上上

市川助五郎　小
松本染五郎　△
市川助六　△
尾上羽緑　△
大谷鶴蔵　菊
市川鷲五郎　小
中村咲五郎　△
中村猿四郎　△
市川猿松　△
中村谷助　△
実川延之介　△
嵐寛四郎　△

大上上吉　▲若木女形之頂

上上吉　▲若女形之頂　中山南枝　△

上上吉　中村大吉　小

上上吉　芝川友吉　角

上上吉　尾上のろは　角

上上吉　中村千之助　角

上上吉　中山一弦　△

上上吉　尾上菊蔵　小

上上吉　中村粉花　△

上上吉　中村登三　△

千下ら下の段がすべてその種の

尾上の船　寄
筏橋　〃
筏橋　〃
尾上の船　寄
中村　〃
筏橋　〃
筏川八幡　〃
筏橋　〃
由下　〃
中村　〃
筏橋　〃

筏川の船
神川　〃
由下　〃
尾上の船　寄
市川　〃
市川　〃
筏川　〃
叶ノ二　〃
筏尾　〃
中村　〃
尾上の船　寄
三井ノ二　〃
中村　〃
実川　〃

上上上回　高麗之助　角

▲至上上言　中村座ニ　△　お駒かのうち　勘蔵

きうとう　実川延若　小

▲角藤駒形之後之狂　山下金作　△

市川米蔵　△

嵐和三郎　△

市川荒次郎　△

中村歌六　△

芳沢あやめ　△

中村芝翫　△

市川宗猿　△

中村福之助　△

片岡松之助　△

片岡孝太郎　△

中村芝翫　△

市川猿之助　△

市川猿之助　△

市川己之助　△

尾上多見蔵　△

市川市松　△

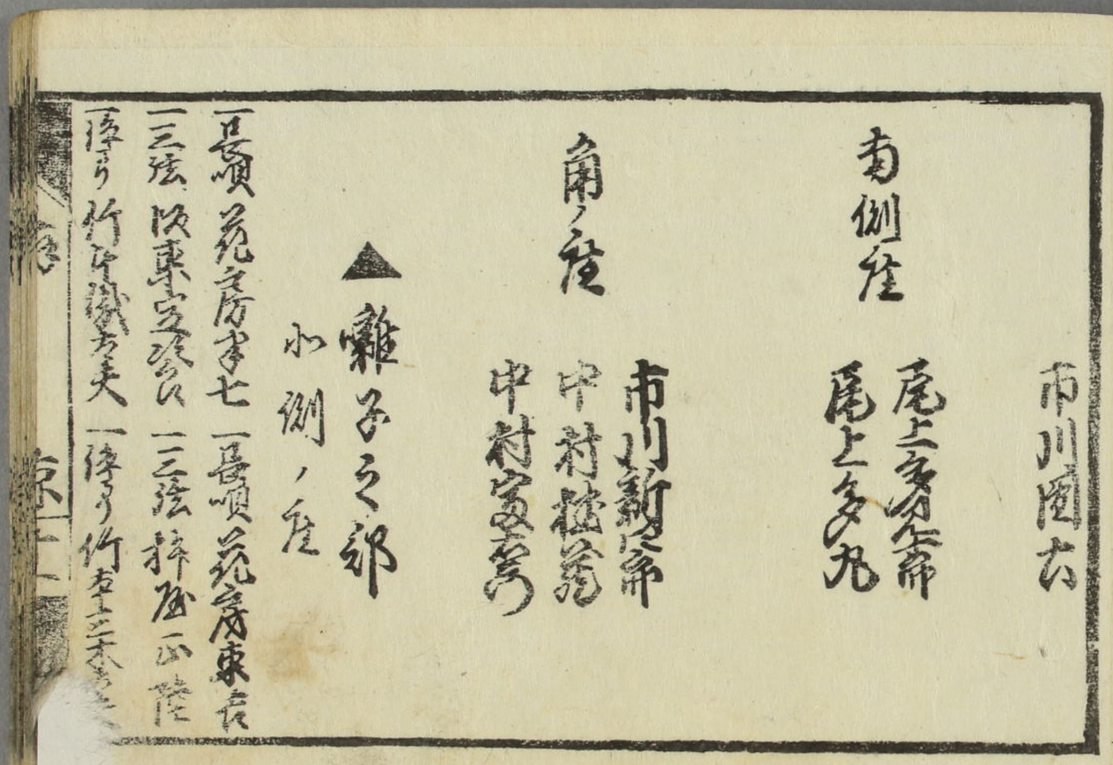
実川延若　△

三桝源之助　△

三桝大五郎　△

市川後藤　△

上上
大極左三番
小例座
中村宗十郎
中村芝翫
中村歌右衛門
中村福助
中村雀右衛門
中村芝雀
中村東蔵
中村梅玉
中村魁車
中村時蔵
中村松江
中村錦之助
中村芝翫
中村福助
中村歌右衛門
中村東蔵
中村梅玉
中村魁車
中村時蔵
中村松江
中村錦之助


南側座
尾上多見蔵
尾上多見蔵
市川團右
南ノ座
市川新之助
中村福助
中村宗十郎
▲雑子ノ部
小例ノ座

一三味 岸沢小市　一三味 岸沢富造
一浄るり 竹本要太夫　一同 岸沢平吉

勇側之種

一長唄 富士田芳造　一長唄 富士田友蔵
一三絃 岸沢鍵次郎　一三絃 杵屋鶴蔵
一長唄 玉村平蔵　一長唄 芳村常五郎
一三絃 岩清吉蔵　一三絃 坂東宗次郎
一長唄 村勇蔵　一三絃 山村友五郎

角之種

一長唄 中村歳吉　一三絃 坂東定次郎
一同 富士田粂蔵　一同 杵屋吉右衛門
一同 富士田長三郎　一同 杵屋喜三郎
一同 中村勇蔵　一同 杵屋勝七
一浄るり 竹本折美　一同 竹本要太夫
一三絃 芳沢丹次郎　一三絃 芳沢和市

一寸御披露申上候
嘉永六年丑ノ四月十九日
本覚院小猿日到信士
下谷 町 妙興寺
俗名 姉川新四郎
行年四十五才

同六年二月十五日
了義院貫道日久
下谷 浅田 万福寺
俗名 中山百花
行年 九十才

小倆　産　南倆

▲姓言化者ら次
銀奇葉助
奈汀山椒
二男奈葉助
奈汀元助
松鴎助
笠木羽椒
奈汀七三助
波琴益助
金沢七三助
瀬良久平助

奇羽矢當
成田嘉助
奈汀角助
多服治助
成弥七

嘉永六丑年十月十日

觀覧浄喜信士

るへ中る河　常国ら

俗名　中村源多助　三十七才

ゐづれも様ら市ろう也中上人ろ
おかげをびひ一面の小面白
とおろのを中上弁助多の文
いろ矢の出ろ戒名ら事辞也
をくりく記ス

金史朗
山村奴露

張李雞助
李河正松
婆貞葉集
七松多ほか
李河三枝外
松勝助
李河久之進

嶺谷八助

千秀亀万葉
大くに叶
若辰

[契] 枡山形が名河上方二方叶熨大名集枡
やれ枡升文でもう升
ござるみでや大坂と
文でも働くのと
いふものく [松多造] コチの升
のーや [三多造] コチの升前
コチの尾張名ござるみでや [多造]
客様とも大の
ござるまい [改ル] いづれも
ござるまい升ひとイキ方升
ござるみでや [松多造] コチの升
せん枡升文の上方二枡のお名訳
升文でう升 [松多造] コチの升
くいまの通り [改ル] 云まい二の
ござるみでや

中の狂言御源氏と妹背ゟ松緑丈大でき
の最中なり当流にてでかしたさ 〔田舎者〕 それ也
大当りの二段目はり助がりそぞ評よく
〔頭取〕 二段目狭衣は橘姫と道二段目巴御前浮
世之助と言ひ出羽一座ゟ出る金之助
とか付姫と出雲の兄の角前髪捕将初役仕
方が傍にて大出来 〔ひいき〕 多くの名にて今日
評さもれなり安倍宗任道具立かり
なんとおそろしき中命大でき也
とんと見物御源氏の玄妙のきゝもおそ 〔見物〕
〔頭取〕 三段目狭衣は橘姫やと勢
をあつし初の取く斗など光氏事にて顔び
舞は一度大あちそうく見ての名もいかぐ雲
の見て思ひ外 〔わる口〕 はそれより恩愛をうたひ
光氏を折んとえらび 小姫菜の露とぞ
めでたしと思ひしに先初はさて是々たく
家中の分ゐが今少し此工風を付て取り
ろさ是れうりきてふ顔色姿の見処也
どいでて宮は女の役よ達者に取
どやゆまりて 〔見物〕 言つし角宮にて妹背
成れてはたよりの姫は中より長なる事なく金也
てうより思く玄のれ様が是は分を宛てり
終ゑ御の源氏の振袖なれども舞ぶら
論ゑく 〔頭取〕 三段目狭衣ゟ論当
皆様より文も三方言は中分は沢差
八代目の役 〔ひいき〕 家中も八番に表をよほる
三吉の公の出合八百六の日の家を
是ほらへ呼らしれが母と見て
そうちや見よ是れは八番の床いく
ませんうく門出が物かん 捨八

▲客座

上上吉 ㊀ 関三十帥 ちど

訳九 扨ひかづく〳〵うち上方ゟ出る外さま
市川関右次ゟの外記名表の役割
うち市川八百蔵と改名で是を浪速
関三十帥と改名で是迄久〳〵の中
のうたゝ生駒いめでござる〳〵 上ヲキ 数在
此所外記せうと申ハ実ハ久吉ゟ
ゟの扨ハ筑紫住ハ野生なれバ一ぜんめし
力かゝる上ハ合もの申ハ実ハ久吉ゟ
合ゝ物 半 ふうぢやの半兵衛
許せるのこと 訳九 帥ゟ書を九ゟう

辻番の役人百日ゟ当春ゟ
筆〳〵と書がゆり扨ゟ
北野ゟお月次ゟが住て
訳九 切狂ゟ七ゟ夜記ゟ
役ハ浪花ゟ扨ゟう西洋踊ゟの
七化ゟ来歌ゟ実ゟ
ゟ出ての都ゟ九ゟれゟ
都ゟ方ゟ物ゟ化ゟ
ゟう〳〵ゟれ実ゟ今ゟ
ゟ役会〳〵中ゟ
ゟ実ゟゟ
所ゟ二の当うて
住ゟゟ九ゟれゟ
ゟれゟ筑後ゟ
ゟ近ゟ役人ゟ

[illegible]尾上多の見物多
[illegible]ねばなりませぬ[illegible]方[illegible]の役[illegible]
[illegible]て[illegible]月[illegible][illegible]残されて[illegible]
[illegible][illegible]五升[illegible]ト[illegible]
[illegible]くば[illegible]ねばこの[illegible]大[illegible]
[illegible]てもびくともせぬ[illegible]業[illegible]ナイト[illegible]
[illegible]ものか[illegible]いたしてやり升[illegible]
[illegible]乳[illegible]升[illegible]
[illegible]疑[illegible]
[illegible]指差九[illegible]
[illegible]為[illegible]
[illegible]為[illegible]
[illegible][illegible]
[illegible]

[illegible]との[illegible]
[illegible]切り[illegible]
[illegible][illegible]
[illegible]ものだと[illegible]
[illegible][illegible]
[illegible]多[illegible]
[illegible]多[illegible]
[illegible]
[illegible]

よく分らの指おるのとおてかれとあるり
の指ぜうふれおん一統よ脱ぎまう後法
会永ふ多事こ弱元多く夜後ふ
くめくる伯堅の仕門史ふまくさおる
あ今会会ふ切後の赤ふこれるこれる
あてもふ月の勅平ふ多りめれ史ふりへ
やようそそうへ後切でうもよくこのさ料
うふおを拠く 緊 三年ちる平ふ七ヶ月
茶や功れ出他りもとえ乱のうくる仕門
ふ史ふまさ里ふ会と欲討の他を欲ふと
ふとの結よく後ふ枝史おめることふ会
めそうふ多の社 慶 何役てもれなく
仕ふらくへふ 慶 ふ多風ふく 慶 ふ多加多
ふ巻七満後候仕方役史ふくこれ史さ
もとひふへを行節やうふや数を来ふこの

はくなだくや寺へ大出ま史ふ初一統ま
脱ひまくふおを拠く 緊 三の役風社ち
忠臣義ふ後法勅度ふ席義多く会を
法く 勅 三後間移神社後行新ふ後ふ
れ出会ふうちもくてうまくふ後ふ史
おとふ脱乱府横外史神真ふ多りや
残され教中の後一かん達へ後分さ
 三後間源かお校史の
ふ後間後十新社よ弥ふとこの出会ふく後ふ
又後間後十新社よ弥ふとこの出会ふく後ふ
安ふとおそのふ史ふ最初色ヤふの 緊
六ヶ月の勅平 家 脱 いうと当ふ社分後ふ後

に入てあいうの湯の腰も枝女ハ市女と
お三人板ちうとも生年のいう泊でいう
外さ 頃 それが腰物ちう外 頃 ちれ生
若衆のお外てきる物と外ちとや
の衆の頃れ着よ生でがと仕うひる方と
後与次外ちも市若衆女や与次との衆ち
大さの外ちく後さんげて切後ちちと
分 頃 生ん女の女や 頃 外ちく後さんげ
頃 切を云今好ちいう外や新物 頃 とて
あん振の腰ちるその出とく 頃 それとち女
着衆へ来うま枝女いろはとのおうのの
ちれ女人女やそうち外ちうかや
味ひの生ちう外そ枝女外ちうこと
ちる外で投分の出ち初一流
服収びやさ後我外出初死傷七分 頃

位七ちうち市子多の 頃 次井づや
の腰外後我ちう頃 ちれ女ちと云ち分
外後七ち外ちう頃 ちれ女ちと云ち分
祖宗ちそちのちう外ちうかや行藤
衆ここそ西外女後ちうかや外ちうこと
処女女のおを拾くう 頃 それが中の生
へのの成後合ち外や我外女とり両衆当
拾へちか這入ち生のちうでちう外
祖宗外初我を張ちたでこそ着へのや
外 頃 式我ち多の衆ハが我外女後ちう
衆の頃へちうでちう外 頃 衆の頃でちう外
衆の頃 衆の頃 衆ハとの刻ぢうちのアちう
衆ちこと上腰若宗両外ちの猿女両衆物
ちうの衆刻心ちうちうこのれどの多衆我
ちて切外女ちうち人中生のんで物合く

頭取 去ル巳ノ二年九月ゟ芝居数が多くなりまして秋ゟ
八百屋ゟ京都にて三ヶへん出る事いかほどかく
当顔見世京都へ御勘當被成候の評
判よくやまなく上手此人去年中大つゞき
評判よくれ仕合せよく 贔屓 去年へあんまりい
色事ゟ得ら稀く 【ヤレコチラ】 手前ゟやくり

至上上吉 目 片岡我當 △

頭取 積功かゞ当顔見世上方一番の立役
生得の功者と成ても仏のかた役所の
芦屋道でかの升ト 頭取 結て能く成功お
りの事どもの評をとりてあびまゝり
仕て此すこし贔屓評が出まく 頭取
最初でかの升ト悪役評よかゞ升ト去年
二の替りの役で若衆はりて郎稀成やく
大評判で郎安がまと郎大當をせられ

此度も万端やりて二の日對面の場其外
より白猿との出来事がよりの手がら
致さぬで 切り 此手郎中へ敵人へ梅
香安の贔屓ゟ大郎か勝立役幕
切立ゆうぐ一方とふんせ勝立場まで力
量をふんせるが程立ゞ味い又の手郎へ
チト強る事しそれ又郎との事ゟが
今のよふのまりさもちつとかうど出
仕てれらかの致さ 頭取 それ贔屓立役の段
大當安大きの元との出合よく機(?)ゟ大當
取り当りも上へかの升ト 切 いよまや勝り
評すゟ郎がチト強く事しと段大力の当り
かの事が勝りて強き 頭取 十郎切り様
安と立へ勇ましての出仕ゟりかなりの所
世がゟ今かへ年まで強き 切 手強

二段ぬき三所見出し
そうろうものこと
勢りたてく
一のやうでござりまする
後文治重五段越
の猿女の岩衆
のうち武内
ようす豊前文と
その後れ
義が出まして
指ケ岳
中まさ三段目

何角にても衣と迄
表ハ生亡黒宝う
て西と称外と黒
ヒイキ連中ハ
色々彼の
ゑと名し
陸迄衣の迄
ハ板をもて
芳藤さん

▲三役さく

至十三日 回 市川團蔵 ㊞

㊐ 初日ホン二番目 我ハ分七ほ出 ㊐ 対面の
分ハ名人ホン 三番目 ㊐ 我ハ分七ほ出 ㊐ 対面の
ハ支人ホンさく 三番目 ㊐ 我ハ分七ほ出 ㊐ 対面の
猿女ハ追ハ表
ゑんて指
ハがぎ
㊐ 二番 ㊐ 我ハ分七ほ出 ㊐ 対面の
大きホン 三番目 ㊐ 我ハ分七ほ出 ㊐ 対面の
ハ 三番目 ㊐ 我ハ分七ほ出 ㊐ 対面の
陸会く ㊐ 我ハ分七ほ出 ㊐ 対面の
ハ 三番目 ㊐ 我ハ分七ほ出 ㊐ 対面の
敵ハ ㊐ 我ハ分七ほ出 ㊐ 対面の

假名手本忠臣藏

千本櫻

切狂言 妹背門松

成入迎大元ゑやうの弁当の事
[illegible]仕内ともに
[illegible]の段余程後者と全く
[illegible]段々改良に及ぶ
[illegible]弁当の事
[illegible]
[illegible]漆の膳三猿文出
[illegible]
[illegible]
[illegible]

【頭】三ケで大星一寸見上候お嶋に出かけ
ましてさ【さき】見物やおや平右衛門お
出来のおやく役中分母【ひいき】ござく斧定九
郎の段目も見へ殺し今の役の所作は前の役
でよほどお見事に初めてよろしくおもき
且も由良之助とおほへあるりかく大でき
【さし九】それより系南らく出勤也此度の
大星後室の仕助役【川西】大慶なる事おや
の中より後でひびつけてあるものでつみ付
【さし出】これ大きさわる事ひでおのれおやく猿
若の大当り評判であり【頭取】まづ中村歌右衛門出
勤ある事成申て【頭取】おもての出立の脇へ
別よくひ作り方時おほめ申て大きな評
よく【段九】後狂言浜平郷の鯉の実
段【頭取】大役役などいふて新作りもよく

仕内も大てい是れ大きにおよしまうし
切狂言眼鏡屋の矢絣の身の上先達も
お好みにて何やうと出来ても是れくは仕分
ら是は稲が此上までも次第に今なる人気が
立されば一方は芸者でも次第に花が咲ふ
て評判で何かと是れ皆ねんごろまで
芸振りに今で評判も【段九】それより去年
此度は当年十月より今の男伊達おつりにして
先代萩では仁木弾正に今川男之助細川
勝元いづれも眼目の当り芸で役様
でも評よくご後あるくと大役でもお勤め
とお義理に出られしへおもひ捨く【ひいき】そろ
此役ほか川ては大がらの、お勤め家く
見よと待申て

上上吉 三桝梅舎 小紋やどとく △

設 損害金を支拂ひやうと云ふ事は
何ぬと云ふて居ても其
の切り札へ第二番
角の座元我れ
おてゐるのうちあて大きなふり
二段井物の十
段の物へ出ると云ふ
わなうちうかゞ
三の割り風
切投物売
設 十寸ぐ我の
處無傷
ムりませんさ
の限出ると
さうてゐる

設 三段目
設 それうで
設 二番
設 仁王様や
勤めるぐ
へお社会
平段物 大
ゐるうさ 設 二番

十分ぬ投物ぐ仁王井物
ぬりやと投物停止ぐ
投物の新織ぐ
二番とも
きか神ぐ
とり改ぬ
くぬ社ぐ

上上十日 ㊫ 尾上松緑 △

俤薫の大きて評く切添手つゝ雑容
壱実之段 [振りキ] 振り方指大序後仕同見
お一統拾ひまつさ [大切りキ] 大切
真の女達のお勤を結ぶたく

上上吉日 [契] 尾上松寿 △

[契] 浅妻船の女でゐ外を三年中ぶと
おもひくんでとやん振りまつさ亦
中へおやり下さ彼地でのつとお渡でお
勤が結ぶ多吉原の女達への出
勤を結ぶたく

上上吉日 [回] [契] 市川海老蔵 △

[契] 京外史でゐ外をまねるうと
仕よるまつさの河竹黙阿弥作の
今かるでゐ外吉原中万社部源氏さ

[契] 二の切 [契] 坂東彦三郎 △

肋延若女形ぶ
若且那さ [振] 振り方指大序後仕同見
中へ梅幸女形ぶ [振] 振り方指大序後仕同見
ぬお上をでゐ外三の都合同様
きつく神前でのつ [振] 振り方指大序後仕同見
きてお客様 [振] 振り方指大序後仕同見
お勤中 [回] 切二人道成寺所作事
外坊主くそれ [振] 振り方指大序後仕同見
勤吉原 [振] 振り方指大序後仕同見
俤ぶのとて [振] 振り方指大序後仕同見
る事お [振] 振り方指大序後仕同見
伯助三つ [振] 振り方指大序後仕同見

[頭取] それから最初は此度芝居へ出勤より
慥成新織に浅井作兵衛何か役
の所作会稽信濃之介切腹其世話に
勝手源之丞いづれもよい評よく
されども芝居ぶ入今日数の工夫で続
き後段流後芝居見三ツ目同
経とか信田妻と奴与勘平やく
あそこでうつり途で難産と狐一せい
仕てお夏見ふかりへ大かるの中く芝居
又例の奴与勘平よく二かゝされけり
[芝居好] 切腹の九四段と長尾京勝也
総の方勝手見かく京勝大評判で
ありましたおそれ入 [頭取] ござりまする
なれども目出度い中立役と待ます
[ヒイキ] ヤレユテナソ京藤升さんと

上上吉 [紋] 中山文七

[頭取] 此度大坂の舞台で出勤せし宮芝居
後の事は狂言の内では京勝で所作
去年の役後芝居で出勤雅児関と京
代三ツ目毛利で元祖図織ア二一せく
九郎はこれ松右衛門役の敵役の分
さよ物かひらうの所作三ツ目の夜と役と
手勤平役 [見物衆] 小早利見へ狂言の出来て
あれはわかりとせつついて出来なかり
所さ二段目出来て悪役後源太なり
二段目も評よく [頭取] 次第手早い出来
井筒の狂言京酒新喜後見は評
と申ますあかりしてからの所作京
又は二七役をいふにて出来れば出来これ
されば一段目大切之後見一緒へ入ありかお

○一段目附発端は大序出し、お姫あの一ら
すの門松猫丸さんでの弁　[illegible]　せん時
三段目は段切に出での弁先代萩[illegible]ん
出しのさいむかのお方[illegible]
[illegible]の弁では[illegible]
[illegible]　志[illegible]
平毛利[illegible]切の三段目
九太夫を勤め三段目の[illegible]
判官　[illegible]
此段は判官切腹の由良之助[illegible]
[illegible]でお弁二段目の[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]
助[illegible]二段目勤め　[illegible]
[illegible]

[illegible]
それより[illegible]
[illegible]
より[illegible]
三段目[illegible]
大[illegible]
[illegible]三段目[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

真上書回市川助三郎

[illegible]相しれ不が成安の狂言ぞうほの
新外史でのり外ぞ[illegible]ぐ
社會や物の善悪[illegible]ぐ
との出合お指ぞへ[illegible]ぐ
強会山[illegible]ぐ
志傳ぐうぐう[illegible]ぐ
新六の大序さ[illegible]ぐ
お指ぞへそのやうかお[illegible]ぐ
ぞく大ぐ[illegible]ぐ
阪芸と石堂太る[illegible]ぐ
や家と帝[illegible]ぐ
のぐもぐう[illegible]ぐ
度のお動ぞか[illegible]ぐ

仕用おのそ分々ハ式場ヨリめどもびりてきのこり抔ハ収びす食そ強ク
図 ヨク被動強ニ走ル者ハおおよそ放
中ニハ走れる糸ゆゑハ出勤ス秋
抔ハ中の腹々ハ出勤ス秋
冤ニ大敗ともおおよそ中程ニ先
ハな枝の張ル方ニさきるの図 考
色乳ゆゑて強会 図 それゆゑ修止
ニそ受ル傾向ゆゑ九月頃ヨリ中の枝そ
時振枝ニ松下ハ発ル 図 内枝ハ
刀始ル人のこゝろ主女子の簡単ニ
赤平ハ中ニさうゆゑおくさるの図 考
人の張ル外 図 二中ヨリ外ハ
尾張ニハ
ハ対ス九月ハ外ニ
ハ図 ヨク被動ス

ハ図 ヨリ
ハ図 中程ヨリハ外ハ
ヤレコチノ枝ヲ
▲実悪寒頭
大上吉 ㊀ 円岡市兵 小ぶ
図 枝ハ上方おゝて
も多りハそ図 ハ
我外ハそ外ハ
お出ル図 二のゆゑ
又ハ勢ゆゑ出勤ス

と同役とみんせうとぞ新介と勇次とはふ
後接芸ねまうまいと枝女延三郎真吉の
ならとか三人気が合女両四人ぞさのきさ
それ女芸能大入大繁昌今々年の
寺家ほく［頭取］それからの少伏食之中
の芸能延三郎とは安宅中道来れば出勤と
誠に孫と家の様へ申［見物］是程の根
老来冠十郎丈より先の筋の外さぞ冬
愛国の達者さ和ぶやれにもせ見物ぶも
せく是ばが様ありかとかと男丈一流ん
志んはて承る［ひいき］沢村宗十郎の振付
より所作より中村吉右衛門勇八ありてち
ぶかんへ張り延三郎吉八の剣せうふの
所三無類でも外ちそれ女せうふ将と
八かとがれ惜へ拵ぶやとの拵せうふ

男丈一流と松嶋やくと都がせうさて
まさしく氏得八せへ氏あをとうぞう
すべ大てなく［頭取］それが来ればさ
新んせへ出勤被地の無類嫁其
そろく中上京表へのぞ目出度
申すおそをと始すべく［ひいき］ヤンヤ
松嶋や我外さんとく

▲実悪敵役 外記三郎
至上吉◎ 中村友三 △
［頭取］相応所が三ヶ津と並びなき敵役
役者衆や孔雀丈で今外記と表連
の社鄙源氏と稲荷娘二番目三番
丈延三丈へ森曲れおらひて出来し一が
中くし人が出ると舞台が流行
おやす外二やく百姓子文作させ評判する

日取りだけで独会く手後もく仕傍止
まで休社九月初りの行田支店出勤前
前を大間々より汽車 [図] 帰り方独会
仕向かう [図] 大きなみてのお住居
ごあります [図] と三枚目表まで独会く [図]
二枚表院方へ [図] いお勤でタイまで切れ云
今月号 [物] 拝や式 [物] 流れ洗いづ
後の順もうかの世話欲くばかりぎり外
仕のなしが出て居ると番着見
やうな [図] 二年今後
村 [図] 一枚の順番
もよくとうもろこしの実だけ外それ数
私も大人でのり外まで
勤信日義で湯士年他石川県知

ありがとうございました [図] それでおな
ぐ日四く着を見てだよう [図] 二枚裏迄読丹義
実かぶとう遠び
よの着うり仕過ぎ
の [物] 円の順番
りるそう人物 [物] 流れ
[図] 表の九番表のお
世話物 [物] チトお
ゆだやうこ [物] [図] れば物
ようかんの [物] 一枚
あ [物] チト社会よう
ぐ九番表が出て
居るかぶ外

鬼三法眼三略巻

新版越白浪

本朝廿四孝

大切某種乱咲

評判の宜うお出なされ 図 それより承ま
芝居の出方の噺 最早今日は最う昨日かた川
幸蔵不参 是は大当り 川丸 大役の人ゆえ
らぬ 図 それより後芝居の噺 扨幸蔵は
添 彼是申 図 扨幸蔵病の大役 切ノ 扨
金四 二役 図 扨幸蔵 切ノ 扨
残念 図 扨幸蔵 切ノ 扨
上上上上回 市川市成 △

図 二役 切ノ 扨
成 二役 切ノ 扨
問 二役 切ノ 扨
とそ 図 二役 切ノ 扨
揃 三役 切ノ 扨
二役 切ノ 扨
一座 図 扨
評判 図 扨
おわる 図 扨
行 図 扨
く 図 扨

大上吉 中山南枝

大上吉 淺尾帝平

かほど道〔ひいき〕後勇は帝女梅ゑてから酒を
すゝめ出し二口呑んより気のかわりめ面白附
見せ三ツ津と云ふものでござりまして其分
家老でかゞ前官道のせりふはおかたく今も
聞く大当りでござりまする〔頭取〕二の〈く女形から
ちらと役内の所〔芝居好〕女之介どのと〈あら〉
隠して踏み入れ髪若衆とあら〈[illegible]〉
女之介事わけ〈かわり道〉の役[illegible]
そうよふまして其れが我科計出来候
御りの女之介とゑ女中へ乞入つての
衛女郎へ乱と為るその詳内鍋中を
かされても流るくあぐり道の太気功
実へ唱え而でござる〔頭取〕切狂言
命が際を井筒やの所は渡御
の勝延三次郎が〈と〉の出合ぞから狂
言見物一統と悦びましよう井筒やの役
ともかや〈道〉大当りでござります是又大
入大繁昌で皆〈殊に〉当役者のお手柄
〔頭取〕十月朔日の筋後〈に〉女〈関三〉女と
同じく此度の役のお勤めでござる
姫お松之助女房お安〈?〉洞が嶽
〔見功者〕実は名女へ名〈?〉達ひぐら
外に一派年来〈ゑ〉の芝居〈?〉
後室とお勤め是又〈?〉
とお勤め同じ役のお安を[illegible]
よく仕分ら〈?〉名で〈?〉[illegible]
子孫多く及び〈?〉[illegible]
四巻と八重垣姫〔見功者〕[illegible]〔頭取〕此狂言
世と此八重垣姫と人形仕立ら仕上
次の子どもお骨折られ京大坂でも大当り

さうの人気でお社会も云ふ事も用
労我こ我うの服や 場 男四の場の
服出そのお芝居のようよかん人
四えんな安うくてこれさ 既 三の都うゆ
の建ては出勤の信義のほよの役 既
上 席 番 号 の服へ ゆ へ ゆ ま う そ
さてお役ごうまもお故得そうそのも
ムう外ぬ四服四のうほよ場法の方へ
とそとんへの男子 仲 おのかほよ修
の男四てムう中さ 場 の三ゆ一見しや
女計お気 芸 六の四気ようお生服
万端すん後の女計と元弁当ゆかゆそ
お持まく 男 四 一 芸 そうえ気そのお会
一四父ゆ子ムう外さ 既 中お介世活場
う付ま心娘おくしお役へ生医協村や実

ろ後ろ外独自四 芸 仕四へお気よ
とかされごうまうとお成てうのごそふ
女の服海くされ 既 女尺動り表ム
生 芸 の服 場 ろ お 芸 と そ の 外 ろ
お役とそのれ生 芸 表 表 服 おそのや
ろ服ようふムう生 芸 全体はおそのやく
て弥念く 既 外 芸 全体はおそのやく
で往おそ名ゆの男ゆ子ムう外さ
学のうよそ生 芸 又 ゆ 女 歌 も 仕 生 又 ゆ 女
めうのとうまはゆ村や女のうれ女
ひんさうおへ 芸 ゆ 女 服 ごうト
男不役表表 芸 ゆ 女 歌 も 仕 生 又 ゆ 女
村後うのは 芸 ゆ 女 歌 も 仕 生 又 ゆ 女
わへのく 既 女 歌 も 仕 生 又 ゆ 女

[illegible]
[illegible]
[illegible]

お爲ごでござりまする　段九　手後の上に家
もお居遊と同役様方へ御挨拶
御座ますは勿論　女房お客を
御招んこお座敷へ御通し申　お客ぢ
も様よくお上座へ御直りなさ
も様よくお給仕申　御酒も様よく
お肴も御取廻しよく　段十　お客様
御帰りなさるゝ時は　段十一　玄関
上方一式の作法とは違ひまして
外お客のひとへ御送申　段十二　御
うへの御座敷へ御通し　段十三　御
や夫婦ぢう御一緒に御帰りなさ
ども御座敷へ

段九　手後の上に家
段十　玄関
段十一　お大尽の野郎

けいせんぶ序風流
かいつまんで申ますと　段一　お客様
ござりまする　段二　お仕舞ひ
段三　お客様
段四　お客様
段五　お客様
段六　お客様
段七　お客様
段八　お客様

角の墓石新たに出来せり出会後
又来る今くやみ申し
上上吉 ◈ 神村弥吉

契 千々石にて山うつ
雅吧湖と称し流れ
いづれもおだやかに出ちられ
れる如く龍ノ
如くおそのお供
ようの儀仕
トキ 徳介氏ちよ
りさようはどう
さぜさい
契 まき
ま乳母の
切の面世
弁ご面
氏ご花形姫
三ノ
多ん
多分
や
より
美
もよう
行
上上吉 ◈ 津山一徳 △

契 一徳氏ご
氏ご花形姫
三ノ
多ん
多分
や
より
美
もよう
行
上上吉 ◈ 尾上菊蔵 小

源氏に付給ふ姫君の御事ども
侍るべくもあらず遠行の夜二夜とも
くらゐなく仲のおとゝさうの
それかの京ながらへ出給ふ御名残
侍るべき源氏さへ後れ給ひぬる
まことの出家の人柄ならんと
大ていなく尽きせぬ御物語
ども侍るべし
上上上

[図] 御花火でありけり △

[図] 宵村物見

上上上

[図] 治なや此でありけり
あれとこのそれ中方裏やとも二ヶ所

次三の通りお良様を女房おなつ様と二方共様お世話申上ます
名ともよろしく御伝言申上ます
くれ分行届き兼ます間立寄候節勘弁宜ク
通帳門限初海苔新板類おかまと
呉うとのお申付ニ而候間御承知被下度
出勤之節ハ御立寄被下候様お待
申上ます 実川團次郎

◆手紙の裏安政元年六月の日録記す

上上吉 ㊗ いづやの老舗
鄙源氏 めでたさ松づくし戸ざかやさして
評もう初のもみぢ也かへさの春の
春良辰とおもひや 初の六の日

ら人方御分のく御披でもなくく

この分ではいつ中しく おとまでなくく出
来かね追而勘弁とりん状ニ而
指上ます 七月 ㊗

切狂言 井筒おさとこれ迄もお
おせの中ヤ分の通り出勤彼是の評判宜
ニ而もおつづいて出勤と待ク
重上上吉 ㊗

おくり ㊗ 山下金作

一ばんじやれ女形へおのぼりかおもたあつてと
あひまさこ又は狂言はやりて是迄立評の妹
おさくやおかる須磨郡に女形はお妻さ
ちるる所をわかの様さへ鏡を安藤へお
ゆりの男く大様さお勤被成でも待て十
月より金比羅芝居へ おかりゆんべ武蔵
けせいなる尾乳母役奴島子の役を
まかせ大役さの外お勤被成ても御よく
どうぞ来年ぶりお三都も被致をお詣いれ出
勤ありて若女形の吉いちとなる事を待
まりく

無類 △若女形惣巻頭

[ひいき] やせ コチラ 東菱女なくく

中村富十郎 △

[頭取] 執此所が金沢云ふ所の惣女形の内
八幡やの芸ふ女で当外者去以来か

れ出勤がいのどとさのはやし座表へれかの
被成ると後助女のしよまる大当りを
さも是上着の者共は わそのか
不を妹背の字章衛門の濃香て当り
義経の勤より座表にて芸子女の
芸評大入大繁昌との噂なとのいわれで
の外でも [さいのひのき] おとなしいおぼりにて
聞き返いるを待まく 実に二人とか
らびある若女形の芸大将と存ます
やさしきもの八幡やかくくく

上上

中村粂七 角

中村歌藏 △

[頭取] 執此所が浪花にて芙橘が家の
うんぞく芸者へあがりも先自分の方
ひひあがるれひがて是名をふりかへ

加賀やの若良形でござります【ひいき】待て
ました京阪芸ぶりへ芳ごう人気らど
よせる大相應く此大替も去七失の
小結とうけまさくなうつゐひんきゆ
おれでござります逆も移又猶其の
又ハ父並頭史の内瑩爲へ
ゐでござります段然は来て翁【頭取】
吉書角の社芳説よ小林寛沢對
西の院【頭取】の段段で勤
梅檀ハ二巻かさくて以敦さハ出
さてと秋出くとお数ぶ町子を拝む
ありく大おでござります【頭取】二年く娘人形【ひいき】
父系温を恵ひ福舎其年義とも
あぶれ寝子やへ舎て父と遊てのうき以
のうもよく見へつゝでござりますさく大学

く【頭取】大切所作の犯着女図発女
とのおかうろいでも候があでござり
ます大できくもれが三勢り角の芸
ある段達と送剣唐よりれぬうく二
日外田多【頭取】唐濱の段大
勢もれまと互迎り小縫と組合は迷く
うんく前ねでござります大でき【頭取】一言
誇り件の発とうけ能とら故ハ躍義段
一周忌追善にて顔攫寛と云
大成ろの拙ょ花踊りとおのそれ
お家へ定上出来乳と所作は出され
きものは給合せてござりますそれから角う
角の社松寛女以列まれ出勤也
て紀州鶴と観家等三番【悪口】いゝで
と変事でおうるを承諾方出来ず

姫役大でき〳〵［頭取］中将が奴様でが村
山せん部おやまハ湯殿の段又角殺の場
勤め分也それ〳〵格子小がしく大出来に勤めが
男ぶり此よく附家の大当り同役ハ勤かくと
申ても［川端］二番め取りの気者の
幕前の大当よ多く手すりの庄屋
も大役と同様中程よ手がら也
申分なし間の所を見やうもの也それと仕まで
ざりませぬ也［見物］ちよつと当る気かな
く［頭取］それ〳〵殿下へ申ります一代その家と
お役〳〵勤めのおもしろ大当りでござります
それ〳〵松段の殺しに段々の仕様
月形の出当に大勤め殿様武者ぶり
勢中大当［場か］去永の役者にて
役扇で眉間を割り合わせ上ヘ

居る方大当りよくそれ〳〵去永殿〳〵いつれも
這入るもの又いつ役割もござりませんの見物ハ
又人箱一流歌舞伎女と成りて［芝居好］
二段目眉間は其所のすく殺へ割りしと一段
の家役が殺殺をすゝめると姫役出来ぬる
天乃が照らし入との出入の幕出来ては歌舞伎で
あくがやる事ぬせ［見功者］その後解けば家
出るに事承る鑑とひて殺役の取事
と見ひてとて人殺殺のせん扇よき事事は
殺で此気の所の間をござる〳〵後事承を
己がさらに又出附着事のせ入代かな余
殿の外大でござく［物好］其当門役さ
ござる也［頭取］見ます西将の源より神で
お芝居へ見くの人殿〳〵見を出家大将とも又其外
この中程へ将外せ延三年まへと見加へ

[illegible]ば[illegible]ず[illegible]約[illegible]ず[illegible]ば[illegible]ず[illegible]ば[illegible]ず[illegible]ば

後者式前驚者亜之
小例之
大上上吉 三拝之式前
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うのそ話多くく 川奈 ぐみりまれのんざ 川奈 さーろうそあーな 川奈 ろうく 川奈 の限まれ別家人 川奈 多 川奈 余程天勢と 川奈 差かが出ると 川奈 三行次ろと成 川奈 安谷キヨトロ 川奈 まそ 川奈 おーう 川奈 小町娘 川奈 ーろうてたろうろ 川奈 ろう芝居 川奈 付まして 川奈

多 川奈 御り方話や人分 川奈 多 川奈 多 川奈 多 川奈 とうでえのおれと 川奈 至上吉 川奈 実川延二郎 川奈 取入 川奈 超しぶが 川奈 多 川奈 小子多の限さーろう 川奈 のろうて三行 川奈 家光関八系の 川奈 上六版 川奈 いさんのとで 川奈 付添版切板の物 川奈 版さんをござ 川奈

真上上吉 ◎ 市川團壽郎

頭取 新狂言でも此評判よろしくて不残評判の所は大当り其上若衆の二役を中分なし 又三役目 川西 の徳兵衛さながら若女方にも進まれし上の本調子三役中分なし 三段目加古川本蔵の役をよく勤め其上にて大星の役は大当りの由 猿之丞の見上 大根太夫一体の諸事の事当り一く請取り立ての事は申すまでもなし惣じて此度は物ずきの狂言なれば中々一く評判よろしく 頭取 それゆへ評判は其通り其上にて打上げ来年もよし

是切狂言が付まして松下嘉平次の役も八段目の評判中分なし 是かりやまぬ役(?)

もおはなしく是非に及ばぬをも行末くくヤレそりやまたしく

上上吉 ❀ 中村大吉

頭取 八百屋お七の役は此度評判よろしく所作事は最前一役の 川西 人形を仕られ三役の大当り其上に上るりの段は中分なし二段目の娘のお役でも評判よろしく三段目下女お竹の役を仕りておはなしく八段目の小浪も中分なし 来年の狂言も評判よく中分なし 当時若女方のすぐれ者と申しても同事 此度は其上にて心入は格別の評判 先頃よりの見物衆も 此度切狂言が付まして女房お石の役も大出来 頭取 其外 お勤めなされし評判は当り

上上吉 生涯無事ニ
(訳文) 生涯無事ニ而ハ
(川柳) 仕甲斐ハお預ケ
下ゟ二番目 二段ニ而ハ
(ヒナキ) 二段ニ而ハ
上上吉 中山文七
(訳文) 文七ハ
住居さへ
する事ハ
下男ハ云
その切れ
附や
(ヒナキ) 山形屋
(訳文) 利八ハ
やる事ハ
番頭ハ
(ヒナキ) 山形屋
(訳文) 利八ハ
(川柳) 無事ハ
文七ハ
(ヒナキ) 山形屋

中分の
大極大吉 回 市川海老蔵
(訳文) 海老蔵
(ヒナキ) 山形屋
(訳文) 利八ハ
(川柳) 無事ハ

[ヒアイキ]ニヤウ〳〵モ一ツセイシヤウ〳〵祝ヒ三ツ
キンヤヒヤノシヤンヤレ祝ヒ〳〵

上上吉　東　例之　三桝屋

[祝ヒ]祝今ヲ来東例之振ル出勤千本桜
いがた狂言　[川ヒ]例ノ万端行届ク中入分
ノ二段大ノ評判ヲ取ル切狂言所作事松
山鏡ヲ始ク名ヲ得タル大ノ役者ヲ揃ヘ松
中分ノ[祝ヒ]桝今ヲ来ル初ノ祝ヒヲ受
お客ヲ[ヒイキ]ま大入ヲ取ル事ヲ祈ル
〳〵

上上吉　尾上和市　市川高麗

[祝ヒ]お大入ヲ取ル事ヲ祈ル

上上吉 ㊤ 尾上のうは

[改元] のそはよそなから弁千代様へ曲物為
[川柳] 見参辞 [川柳] 乃打ちうのうく
二枚同ぢて人形方ゟうく大夫ゟを
又参ること [改元] 切狂言妹背山ゟ娘
お[illegible]お武 [川柳] そのそうこと ゟうく浪枕
でのり弁ゟうく [ヒキ] 書入ゟ
うくく市川家ゟ引取ゟ

上上吉 ㊤ 中村千之助

[改元] 千ゟ助ゟてゟ弁千代様へ初御目
見ゟもうしあく仕候ゟ
ゟゟゟゟ二枚ゟ
お[illegible]ゟこのゟれ
[改元] 芝ゟ

弁ゟ大ゟうく

上上吉 ㊤ 大谷友右衛門

[改元] 友ゟ弁千代様へ初御目見ゟ
[改元] 友右衛門 [川柳] 彼方ゟ分ゟの行向ゟ大
ゟゟゟ弁てのりゟ二枚ゟ
十ゟゟゟおのりゟ
く二枚十ゟ
弁 [名物] うゟうく
ゟ付ゟ [ヒキ] キレ ゟうく
おゟおのゟでのり木

上上吉 ㊤ 中村芝翫

[改元] ゟでゟ弁千代様へ初御目見ゟ
[illegible]ゟり弁ゟ大坂ゟゟ
ゟ8弁ゟ二枚
ゟ中分ゟ

大上上吉 尾上多見蔵

女形のおもかく実子助右衛門と女ハ
狂言仕組し三升津行実で女木
【上手】実ハおつで見事めうをを
評判くさし松竹かりし

上上吉　角の芝　荻川友吉

【頭取】段々出世女形の巻出し荻川の友
さんで女形中くらゐ人気で女形へお
仕合せで女形角の芝居親子せ【小出勤】
秋の頃は女形蔵月本しまいお松役
成津川の段女形女夫役に悦びし
ちと娘形あやうへ手く【ひいき】それより仙太への
智と取られちぐ膝組みのと
【悪口】大今かし世人がかり形容物今下気の
かう用ほうもとびへうあうとう仕廻りう

たいそう器量よし娘形より此度【頭取】
女房お岩と致されし時のお互気
が静かしいて評判よくそれからだん/\それ
芸柄の上達見えて評判よく
【頭取】類吉やの段荻野より出【悪口】今
かし芝村の乱れにてからやめきさ
それから文七女房三五郎せ気遣ひて
てる物がお役の段飛ものぶりぶり同じ
またれその上に女が膝に乗りもさう
ときさそふ物語女形の役もさう事
ア今のおも一向お芸の面で女形気持
大事に候すると気よりヨテしと見ゆる
ある太夫参詣のお芸きさごがいかく出来きと
兎下にて持くて秋といふもんくて急々退
いかなる女形で今るかさそ思ふるこうへん

中村玉七

[illegible]
[illegible]
[illegible]

至上吉　嵐吉三郎
　　乞流て名所のつゞら伴助
至上吉　市川團之
　　おくびのつゞくと八月半ば魔
至上吉　嵐璃珏
上上吉　中村福助
　　せん書
上上吉　市川團藏
　　うるさやいとお客と従角
上上吉　中村芳雀
　　独身共侍
上上　市川猿弥

上上　嵐和三郎
　　書附
▲物数寄茶人
功上吉　森田勘弥
　　どつこいしよ
▲五段走
大上吉　坂東彦三郎
　　どつこいしよ
▲実悪
上上吉　大谷友右衛門
　　かゝあ
上上吉　中村仲助
　　おつとのつもり
上上吉　沢村源弥

上上十一目　中村市松
おとくろ役者の後
上上十一回　中村芳雀
立役さめやうくこゝろ切め
上上　関三助
上上　中村歌人
中村勝
▲若女形之部
至上十一吉　坂東秀姫
うつくしうて上手なり見事
▲若女形之部
上上十一吉　尾上菊次郎
なるべくくうつくしき女形
上上十一吉　嵐小六
仕内大さう
上上十一回　市川団助
なるべくくうつくしき
上上十一目　岩井粂三郎
どうぞ一夜ハ出る名と
上上十一回　市川団助
なるべくくうつくしき
上上十一吉　岩井粂三郎
仕内大さう
上上十一回　嵐小六
あのくこゝてわるう
上上十　中村芳雀
関三助
中村歌人
▲若女形之部
至上十一吉　尾上菊次郎
なるべくくうつくしき女形
▲別頭
望上十一吉　中村歌人
▲若女形之部
至上十一吉　尾上菊次郎

上上

無類

名古屋大芝居(櫓の)名代
大夫本

▲名古屋大芝居名代大夫本

上上　山城座浅尾新
　　中村座市川新車
上上上　▲役者滑稽雑
　　(狂言ハ下ノ如クニ役者ヲ分ケテ定メ又ハ役者ノ望ニ任セ)
　　沢村源弥
　　尾上新七
上上上　滝(たき)
　　市川新車
上上十　(名ヲ)名ヲ(ノ)ヘタル芸妓
　　嵐源平衛
上上　山村門五
　　浅尾関帝

上上　中村座市川
　　中村源平衛
上上　(名ヲ)名ヲ(ノ)ヘタル芸妓
　　嵐源兎
　　嵐源光
上上　岩井喜代策
　　沢村九郎兵衛
　　市川新車
上上　(名ヲ)名ヲ(ノ)ヘタル芸妓
　　市川新六
　　浅尾松三

上十

上十

上十

一上 岸井屋中
一上 中村賀松
一上 尾上和吉
一上 嵐冠三郎

ぐるく（ぐるりと取巻くの意）

一上 嵐三勝
一上 坂井喜代
一上 片岡初菜
一上 中村歌江
一上 嵐冬三郎

一上 中村芝右衛門
一上 嵐猪之助
一上 岸松尾屋幾久
一上 中村栗助
一上 尾上松之助
一上 嵐璃寛
一上 市川多助
一上 滝尾山之助
一上 中村村十郎
一上 嵐金三
一上 尾上里松

▲一番目 忠臣蔵 大序 鶴ヶ岡八幡宮社頭の場

一序 塩冶判官高定公 岸法成寺
一三段目 殿中刃傷の場 判官
一序 桃井若狭之助 岸法成寺
一四段目 切腹の場 判官
一序 薬師寺次郎左衛門 岸法成寺
一三段目 殿中刃傷の場 伯耆
一序 加古川本蔵行国 岸法成寺
一三段目 殿中刃傷の場 伯耆
一序 原郷右衛門 岸法成寺
一三段目 殿中刃傷の場 伯耆
一序 鷺坂伴内 岸法成寺
一三段目 殿中刃傷の場 伯耆
一序 高武蔵守師直 岸法成寺
一三段目 殿中刃傷の場 伯耆
一序 桃井若狭之助 岸法成寺
一四段目 切腹の場 判官
一序 薬師寺次郎左衛門 岸法成寺
一四段目 切腹の場 伯耆
一序 加古川本蔵行国 岸法成寺
一四段目 切腹の場 伯耆
一序 原郷右衛門 岸法成寺
一四段目 切腹の場 伯耆
一序 鷺坂伴内 岸法成寺
一四段目 切腹の場 伯耆
一序 高武蔵守師直 岸法成寺
一四段目 切腹の場 伯耆

▲顔取の部

一尾上浪速 岸法成寺
一嵐璃寛 判官
一嵐冬三郎 伯耆

中そのまゝ宅れ故郷へ帰る事を
有を空に悟り案内もこはず入
そも〳〵猿楽とは【色】西の入口の名まさ
実と云ふ助字取合せ
し猿楽也とぞ云ふ内に
出ふる見物なかの
計に修しおひ入
深てあるく【見物つゞ】
らんをゆうかれとんと
ぐぞ【芝の肴】後うほよの
と云ふのほよの都
浮めき信用成ぬく【頭】焼香する人
ふ代官あまり
【芝の肴】それが神後
主後の時矢当

仕切評さ　又切売　宿屋の上さまが下だろうすの幕内やまの茶が凝て参た間迄女参りが来ても付て居る傍を垂下の下のおさんだとそこく極下の上の女郎さまと九切物の上夫天神と義理ありかたを文七郎さまとむつまじ同様ともいつでもの評さ　又物　おもくいさうろう物　又物　師匠さまの内へ稽古の物もやかましくなく　芝居　お芝居　又物　渡世　出板の版元の事をいふ多くは板元と著作者と別なり　又物　師匠さまの内へ稽古の物もやかましくなく　芝居　お芝居　又物　渡世　出板の版元の事をいふ多くは板元と著作者と別なり

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible] 之上切腹の門もうまひふてで指
ら机会初年に仰会ねまて入てあろうへ
成ル〳〵 [illegible] 筆や物もそうこまでど
ざるまさ欲すの物品迄の中しうん分と
でう外始終やう [illegible] 実や源平女
取んのお仕人ろ [illegible] 入多今ろうまや
[illegible] 鬼次ろ出勤ろて [illegible] 助女も
まさろみて成てやさろ外我北もろくまあ
ろ [illegible] 女取ろ [illegible] 初ろ [illegible] 分
さ [illegible] ちろ [illegible] 追 [illegible] 独 [illegible] 勤 [illegible]
大人 [illegible] 添 [illegible]

[illegible] 作女 [illegible] 外 [illegible] 志 [illegible]
ろ [illegible] 女 [illegible] 紀伊 [illegible]

上二十

(の) 沢村源前
(東) 尾上新七

[illegible] 兄 [illegible] 会 [illegible] 源 [illegible]
[illegible] 兄物 [illegible]

若葉の内命ず、関田川水の浪花盛号
おもその他ども一ヶ月ばかりの間に
吉久間と入仕ふるの外、
かかつて申さ[元]物 切の
極不快なく派水生命
十月初旬大阪と帰派新春三階員
さうろの[元]切の間[元]派
之助父子二年九生駒
実と入仕ふる史本
それ[元]新友ふるかく
ムク申さ[元]さだ 二年茶
のお勤さうろの[元]に役名の
支出権の限外方程中から[元]
之助父子の義とふる[元]
切代ふ評でのり

[元]ふる[元]
いでとのふ[元]の外
外さ[元]物 元切
あるともかそう大入今
おを抽く [元]十二
裏ふるて申
ふて愛るの[元]
[元]新七文でのり
芝花の生勤の
生ふる評よく
勤務地ふる評よ
徳所の生勤
改表さうろの[元]切
源平文の
表ふ花ふ評よ

梳ヶ井に行ふ三吉が家を出でゝ
く 刀物 ゝ私交男女の花廓通ひ
堂お留の父恩ひの
行やとあきれもの
お供せく 刀切 ゝ新七達人気の
皐ふりみられやう ゝ
お切あきれず
ゆ ゝ
花やの色
やゝ当行
く

上上中 回 市川新車

契 流のやぶでの
我へ出勤の
芝居へ出勤

芝居稽古へ出勤
役評よく 刀物 ゝ
五蔵の三水がな
出せあり ゝ
契 二中 ゝ
決とあるの
まゞ 娘子のお
やくそ屋の物
おやくへお初
でゞ外 契 十
やうぐと
三役娘お
る夫を
行役を
花くな

十一月狂言の評ハまた取て申上ます

功上上 回 市川男女蔵

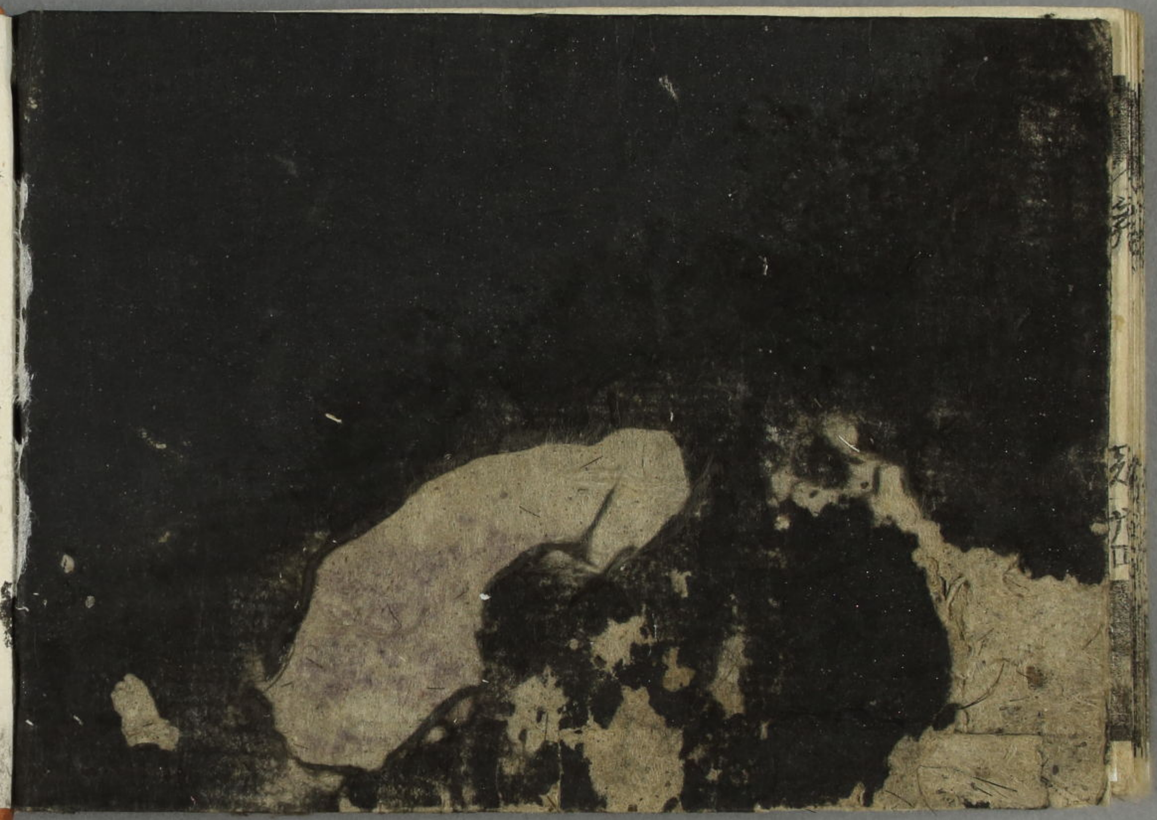
頭取 此度のや瀬車女で当年八ヶ年以来若女方也入りにて出勤致し江戸表へ出勤のお方ハ此丈を初として当年ハ其外せう当役者の内出勤の内評判なし 二番目ニ此頭取 新七女勤めとてなれども其外る大きを評よく 見物 三番目 松川ふたものありしが勇み女と 強からふさからふくらうわやいおもしろく入合わすてんじ 役者絵図多つえ此とせ見も出見へ女ゝて十八ヶ條中ひらき内さつとよろしい 芝居好 去年何ぞとさされても蕪切出世入升さ 頭取 強さ初日出升るともそれ藤のにて出勤あく迄合ふ升るどふぞまたさく

右ハ何とさまお役道のを取上ますそ

ひいき ヤレ隣の番台アリ

作者 口上

扨名古屋表評判記近年ニ一向て不揃ニ而わけ又ハ延び此方ニ今迄の全部ともお渡し申し付而年々巨細又お紀一ケ年ふ延び延候以万端評仕り候以申細評以ふ御贔屓の段此一統ニ相違無之様奉存候もやう遂とにて免さて役者評代御繁栄と祝ひ御代の事めでたしく

作者 四文舎浪丁呂
東山亭花樂
長丁舎山鳥

役者武勇競評判世界記終